

## <信仰の叫び>

マルコ 9 : 14 ~ 24

変貌山での素晴らしい出来事。世にありながら、  
天国を味わうような山上に導かれたが、それから一転。

山から下りてみると、ふもとでは何やら騒動が・・・。

さて、彼らが、弟子たちのところに帰って来て、見ると、その回りに大ぜいの人の群れがおり、  
また、律法学者たちが弟子たちと論じ合っていた。 【I 4 節

信仰生活における「霊的な山」での主との深い交わりの時間は必要。

主の御前での静けさがあり、主の臨在が満ちて、力強い励まし慰めがある。

問題に囲まれて、「もう無理！」思っていた。失望していた自分がいたのに、  
視界が開けるように、大きな問題が、小さく見えてくる。

しかし・・・

イエスさますごい！と、信仰一杯に溢れた山から下山する時に、本当の力が試される。

山上にもっと居りたい！ けれどイエス様は、私たちが世に遣わされた。

下山した山のふもと(日常)こそ、神が私たちを通して、神の栄光を現して下さる現場。

あなたがたは地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。

あなたがたは、世界の光です。 マタイ 5 : 13、14

私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかくわし

キリストのかおりなのです。 II コリント 2 : 15

不信仰に陥ると、色々な事で議論を始める？

イエスさま 「何を議論しているの？」

群衆 「大変苦しんでいる息子の父親が、弟子達のところへ来たけれど  
彼らは直すことが出来なかった。」

イエスさま 「ああ、不信仰な世だ！」

十字架での苦難の予告をしたイエスさま。間もなくこの世を去って行く。  
これから、ご自分に代わって業がなされる事に備えなければならないのに・・・。

助けを求めた父親 「もしおできになるものなら、私たちをあわれんで、お助け下さい」  
期待通りにならなかったときの備えをしているよう。

イエスさま 「出来るものならというのか。信じるものには、どんな事でも出来るのです。」

「信じます。不信仰な私をお助けください。」  
“I do believe; help me overcome my unbelief!”

\* 不信仰に打ち勝てるように助けてください。

どうして自分たちには、この男の子を直せなかったのか？  
悪霊を制する力を持っているという自信を深めていたのに…。イエス様に尋ねた。

イエスは言われた。「この種のもものは、祈りによらなければ、何によっても追い出せる  
ものではありません。」 マルコ 9：29

神ではなく、自分たちの力を信頼していた。それを見ぬいていた。

私たちの信仰生活の基本は、神への全面的な信頼。